

オオカンガルー繁殖再開に向けた時期の選定とペアリング実施結果

柴田 枝梨

金沢動物園では飼育頭数管理の為、2019年秋よりオオカンガルーの繁殖を休止していた。当園のオオカンガルーは、当歳齢での死亡率がもっとも高く全体の4割を占める。2022年に繁殖を再開するにあたり、当園の飼育個体の死亡データを振り返った。当歳齢の死亡が多発していた5～7・9月は、コクシジウムオーシストによる飼育環境の汚染が顕著な時期と重複しており、死因はコクシジウム症や腸炎に起因するものが多く見られた。死亡月齢は着地後3～4ヵ月の個体が多く、育児嚢を利用しなくなり授乳量が著しく減少する生後11～12ヵ月齢にあたる。

幼獣の生存率を上げる目的として、死亡率の高い11～12ヵ月齢が5～9月に当たらないよう、11～5月の出産を目標としてペアリング時期の調整を行った。2022年12月から2月にかけて3頭が出産し、2023年度末現在まで順調に成育している。